

冬季の生活に向けて

◇冬季の学校生活に向けて

秋も深まり、朝夕の寒さが強まってきました。10月1日（水）～31日（金）は更衣移行期間、11月1日（土）からは冬服の完全更衣となります。各ご家庭におかれましても冬季の身なりや生活についてのきまりを確かめていただきますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。

◇服装等について（南中ガイドブックより）

◆冬季は制服の下にセーター・ベスト・トレーナー・カーディガンを着用してもかまいません。色は白・黒・グレー・紺・茶系統の単色・無地のものを身につけよう。ただし、ネクタイが隠れるものはさけよう。

★制服の下に着るカーディガンやトレーナー等は、制服から極端にはみ出さないようにしよう（袖は、親指がすべて見える長さ、丈はお尻が隠れない長さ）。

◆コートは、派手な色のものや高価なものはさけよう。また、極端に丈の長いものや短いもの、パーカー、カーディガンを着用しないようにしよう。部活動で指定されているウィンドブレーカー等を着用してもかまいません。

◆自転車通学用のレインコート・雨カッパは明るい色を使用しよう。

◆マフラーは長すぎて危険のないように着用しよう。

*手袋、マフラー(ネックウォーマ)は玄関で外して教室へ入りましょう。

◆冬季間のスノートレーニングシューズ、ブーツは、派手でないものをはこう。ブーツは靴下がかかる程度の長さで、厚底やロングブーツはやめよう

★ワークブーツの使用は着こなしの観点からさけましょう。

*使い捨てカイロは常に身につけて利用し、使い終わったカイロは持ち帰りましょう。

◇登下校について

部活動終了後の下校時間帯はずいぶん暗くなってきます。下校時は交通安全に十分気をつけましょう。

○暗くなってからの下校時は、自転車の点灯を必ずしましょう。

○家の人に送迎してもらうときは、事前に下校時刻を知らせておきましょう。

○公衆電話はなるべく使わず、予定していた下校時刻が変わったときのみ利用するようにしましょう。

「未来に希望の種をまこう」

～本気で取り組むからこそ見える景色～

9/21 夜、日本中が大歓声の中で幕を閉じた東京2025 世界陸上。私も、『1 秒後、世界が変わる。』の大会キャッチコピーの熱量を毎晩味わいました。



覚えていますか？2017 年、桐生祥秀選手が福井の地で日本人初の 9 秒 98 を記録したあの瞬間を。日本中が沸いた「10 秒の壁」突破。その背後には、高校 3 年生で 10 秒 01 を出してから 4 年間、たった 0.03 秒を縮めるために積み重ねた、想像を絶する努力がありました。大会に出ても自己ベストを更新できない日々、練習を重ねても数字が動かない現実——それでも桐生選手は諦めず、挑み続けました。その姿は、努力の意味を教えてください。そして、記録更新のあとに語ったのは「やっと世界のスタートラインに立てた」「支えてくれた人への感謝」でした。本気で挑んだ人は、必ず感謝を口にします。なぜなら、挑戦の過程で自分一人ではないことに気づくからです。

2025 世界陸上では、国立競技場を埋め尽くした 61 万人の大歓声の中で、多くの選手が「応援が力になった」と語ります。やり投げの北口榛花選手は怪我を乗り越え、「皆さんの声援があったから一番思い切れた」と涙ながらに語りました。サニブラウン選手は「鳥肌が立った」と興奮を隠さず、若き久保凜選手も「どこを歩いても応援してくれて幸せだった」と感謝を口にしました。

挑戦する人と、それを支える人。その両方がいて、奇跡のような瞬間が生まれます。あなたたちの勉強や日々の努力も、きっと同じです。

「本気で取り組む人は必ず感謝を語る」——これは大切なことです。なぜなら、努力の過程で支えてくれた人の存在に気づくから。本気で挑む人には、必ず応援してくれる人が現れるのです。同じように、やり投げの北口榛花選手も東京世界陸上を終えたあと、こう振り返りました。「春先から怪我が続いて精神的にも苦しかったけれど、『東京で世界陸上がある』と思って練習に戻れた。決勝には届かなかったけれど、皆さんの声援があったから一番思い切れた」北口選手もまた、苦しさの中で支えてくれた人々への感謝を語っています。努力の先にあるのは「記録」や「順位」だけではなく、「誰かのおかげでここまで来られた」という実感なのです。では、みなさんの勉強はどうでしょうか。

テストの点が思うように上がらないとき、「どうせやっても無駄だ」と感じることはありませんか？でも、その 1 点を上げるために、どれだけ必死になって取り組んだでしょうか。努力を積み重ねてもすぐに結果が出ないことはあります。けれど、その過程で先生や友達、家族が支えてくれていることに気づけば、感謝の気持ちが生まれます。そして、その感謝が次の挑戦を続ける力になるのです。勉強という道具の「上手な使い方」とは、ただ結果を急ぐことではなく、本気で取り組み、努力の過程で周りの支えに気づくこと。そして、その気づきから感謝が生まれ、また挑戦へとつながっていくことです。

世界陸上を闘った選手たちがそうであったように、本気で取り組む皆さんには、必ず応援してくれる人がいます。そのことを胸に、これからの勉強や生活に挑んでいきましょう。